

「PCR 検査拡大要請」への鎌ヶ谷市の 回答では・・・？

「市長のリーダーシップ」が求められます

市民団体から鎌ヶ谷市への申し入れ(8/6)に対して清水市長から文書回答がありました(2020年8月28日)。

市民からのPCR検査拡充・拡大の申し入れ:①医療・介護・福祉・保育等関係従事者全員の事前の検査を公費負担で実施してください②高齢者、持病を持っている市民からの希望があればPCR検査を公費負担で実施してください③市中感染拡大を防ぐため地域を特定した住民全員の検査体制を作ってください④感染拡大時対応できるように「宿泊療養施設」・「医療施設」の充実を県に要請してください。

清水市長からの回答は、残念ながらPCR検査の有効性を認識すれど「検査は時間を要する」「検査機関や検査技師の不足」などの理由から「希望する市民全員への検査を行うのは難しい」と回答。しかも「県単位、医療圏単位などの広域で考える必要がある」と言って市独自でPCR検査体制を作ることにはまったく触れません。(世田谷モデル等の検討を要請したのに)

国の連絡事項では(8/7、8/18)、“新型コロナウイルス感染症者が多発する地域やクラスターが発生した地域では、医療機関や高齢者施設の職員や入所者も公費でPCR検査や抗原検査を受けられる(施設内で感染者が出ていない段階から)”となっていることも十二分に承知しているのに、国の対応に依拠するだけで市独自に鎌ヶ谷市民の生命・生活を守るためのPCR検査体制(行政検査+社会的検査)をつくらうとはしません。感染症の勉強会とマスクを配ることが市の役目と言うだけです。

児玉教授が指摘しているように新型コロナウイルス制圧のためにそれぞれの地域に見合った検査体制をとる必要があります。「新宿のエピセンター」「世田谷などの周辺部」「感染未集積地」などではその対策が違います。だからそれぞれの自治体が考え対応をとるべきです。

周辺地鎌ヶ谷市(9/1人口11万人に感染者62名)では①行政検査としての保健所・医療機関でのPCR検査の充実②エッセンシャルワーカー(医療・介護・福祉従事者、ごみ収集者など)への事前のPCR検査③その地域内の多発地区での検査があります。

行政検査については千葉県の特権の部分ですが鎌ヶ谷市が声を上げ自動検査器の購入などで行政検査の充実を図る必要があります。エッセンシャルワーカーの検査については、有料老人ホーム「アヴィラージュ新鎌ヶ谷」でのクラスターもありますから介護施設の従事者・福祉施設の従事者・医療機関の従事者にたいし事前にPCR検査をする体制を作るべきです。

地域の“無症状感染者”を隔離し治療していくことで新型コロナウイルスを抑制していく体制を作らなければならないのです。

鎌ヶ谷市はみづからの役割を放棄して、広域・県・国の役割にしてはいけません。世田谷区でも和歌山でもその地域の首長のリーダーシップで体制を作れたのですから鎌ヶ谷市11万人住民の命と健康を真剣に考え鎌ヶ谷モデル=PCR検査体制を作っていくべきです。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。